

## V 教育課題

## 第13分科会 社会性

## ■ 研究課題 ■

## 勤労観・職業観を育むキャリア教育の推進と校長の在り方

## 分科会の趣旨

現在、我が国は、少子高齢化が進む中、消費停滞や雇用不安など経済状況を中心に低成長の時代を迎えた。産業構造の枠組みの変換や歴史・伝統・文化の再評価など、持続可能な社会構築への要請が高まっている。特に、雇用の多様化・流動化が進む中、子どもたちの進路をめぐる環境は、大きく変化している。また、教育を取り巻く環境も変化してきており、若者をめぐる様々な課題が浮かび上がっている。さらには、若者の勤労観・職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の欠如が各方面から指摘されている。このような中で、子どもたちが将来出会うであろう様々な課題に、柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるよう、「生きる力」を育むことが強く求められている。

学校から社会への移行をめぐる課題としては、新規卒業者に対する求人状況の変動や、求職者と求人者の希望の不適合など「就職・就業をめぐる環境の激変」、あるいは社会人としての意識の希薄さや勤労観・職業観の未熟さなど「若者自身の資質などをめぐる課題」が挙げられる。また、子どもたちの生活・意識の変容に関して、社会的自立の遅れ、労働への関心・意欲の低下など「子どもたちの成長・発達上の課題」、モラトリアム傾向や目的意識の希薄な進学・就職など「高学歴社会におけるモラトリアム傾向」が挙げられる。

したがって、本分科会では、自立した社会形成者育成の観点から、学校・社会を関連付けた教育、社会人としての基礎的・資質・能力、発達に応じた指導の継続、家庭・地域と連携した教育など、キャリア教育を推進させるための具体的方策を明らかにする。

## リーダーシップの視点

## (1) 自尊感情を高め、自己や他者への積極的関心を形成・発展させる教育課程の編成

キャリア教育の推進に当たっては、学ぶことと働くことを一元的にとらえ、生きていくための基盤となる力の育成に焦点化した指導が大切になる。ここでは、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながらコミュニケーションを図る「人間関係調整能力」、学ぶこと・働くことの意義や役割などを理解し、幅広く情報を活用して進路や生き方に生かす「情報活用能力」、夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえ、前向きに自己の将来設計をする「将来設計能力」、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する「意思決定能力」の育成が中心となる。各教科・領域等を横断的・総合的に指導できるよう、校内体制の整備も含め、教育課程の編成における校長の果たす役割と指導性を明らかにする。

## (2) 身の回りの仕事や環境に関心をもち、目標に向かって努力する態度の育成

小学校におけるキャリア教育は、全教育活動の中で6年間を通して意図的・継続的に推進していくものである。小学校での成長は著しく、社会的自立・職業的自立に向けて基盤を形成する重要な時期である。ここでは、一人一人の発達に応じて、人、社会、自然、文化と関わる体験活動を、身近なところから徐々に広げ、ていねいに設定することが大切である。また、各種当番活動や勤労生産的な活動などを通して、自らの役割を果たそうとする意欲や態度を育むことが重要となってくる。すなわち、働くことに対する実感的な理解を深め、他者と関わる力を育成し、社会生活の中での責任や勤労などの概念を理解・定着させる校長の役割と指導性について究明する。

## 「基礎的・汎用的能力の育成によるキャリア教育の推進と自校化に向けての具体的取組」 ～「未来を拓く札幌人の育成」を目指す学校教育活動と校長の役割～

札幌地区 札幌市立美香保小学校 本間 雄一

### I 趣 旨

最近の若者は、「さとり世代」と言われている。不況しか知らない世代で、無理をしない、夢を抱かない、現実主義者であり、浪費をせずに、ネット中心の生活をする若者たちのことを指している。現代は、社会の変化が激しく、先行きの不透明な時代である。「なんとなく」「とりあえず」と大学に進学し、就職活動する頃になって戸惑う若者も多い。そのような社会状況をとらえると、今後、学校教育においては、積極的にキャリア教育を推進し、小学校から系統的に社会性を培い、自己肯定感を高めていく教育を、今まで以上に充実させていくことが、きわめて重要である。

「キャリア教育は人である」とも言われている。キャリア教育は、「人」との関わりの中で、「社会性」を育てていく教育であり、「人」との出会い、関わりは、自己肯定感を高めていくことにもつながる。学校は、様々な教育活動の中で、「人との出会い」の場を設定したり、「人との関わりや地域社会との関わり」の場を子どもたちに体験させたりしていく必要がある。

「社会性」は、集団をつくって生活する人間の基本的な素養であり、人の能力の中でも、特に「環境」の影響を受ける領域である。しかし、生まれながらにして完璧な社会性を身に付けている子どもはいない。将来、社会人として自立することができるよう、小学校において、コミュニケーション能力や自主性、関心・意欲などを養う必要がある。

今年度、札幌市の町田隆敏教育長は、「日本の子どもたちは、欧米各国や韓国・中国に比べるとはるかに自己肯定感が低く、将来に夢と希望をもてないでいる。学校生活において、子どもたちが人間性・社会性を身に付け、学ぶ力を得る中で、自分の得意、取り柄を意識し体得して、将来、社会に巣立っていく気概をもてるようになってほしい。そして、大きな意味でのキャリア教育の充実を図っていきたい。」と語っている。

「今、なぜ学校で勉強をしているのか?」「何のために学校へ行くのか?」という学ぶ意義を考えさせ、現在の学習と将来の自分との関係に気づき、学習意欲の向上を図り、自己肯定感を高めていくためにも、今、キャリア教育の充実が不可欠なのである。

### II 研究の概要

1. 小学校におけるキャリア教育について  
～札幌市小学校長会の2年間の研究発表より～
  - (1) 小学校におけるキャリア教育の目指す方向性
    - ① 小学校では、社会性や自主性、関心・意欲などを養うことが重要である。また、職場体験だけに依らないキャリア教育の検討が必要である。
    - ② 子どもたちが持ち味を最大限発揮し、自立するために必要な能力や態度を育てる教育である。
  - (2) キャリア教育の在り方について
    - ① 自己及び他者への積極的関心の形成・発展。
    - ② 身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上。
    - ③ 夢や希望、憧れる自己のイメージ獲得。
    - ④ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成。
  - (3) 教育活動をキャリア教育の視点から見直す
    - ① 今すでにある学校の教育活動を見直す。
    - ② 各教科などに内在する「断片」を焦点化し、関連を図りながら、体系的・系統的に指導する。
    - ③ 育てたい能力としての「基礎的・汎用的能力」を通して、教育活動をとらえ直す。
  - (4) 推進上の課題  
キャリア教育を積極的に推進していくためには、校長の指導性を十分に発揮し、以下の課題に取り組んでいくことが期待されている。
    - ① 教職員が小学校におけるキャリア教育の目指すものとその必要性を認識し、教育活動全体を通して実践できるようにする。
    - ② キャリア教育の実践のための家庭・地域社会との連携・協力体制づくりをする。
    - ③ キャリア教育における活動が、目的、目標を達成し、より効果的に推進するようにマネジメントサイクルを確立する。

### 2. キャリア教育の視点から自校の教育活動を振り返る

各校においてキャリア教育を進めるにあたり、現在の教育活動が児童のキャリア発達にとって、どのように生かされるのかという視点で見直すこ

とが必要となる。キャリア教育の視点は、基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力のフィルターを通して教育活動を見直してみることで、既存の教育活動の中にキャリア教育の断片となるものが多く含まれていることがわかる。

#### 【4つの能力とキャリア教育の断片（市立小学校の事例）】

##### (1) 人間関係形成・社会形成能力

「はるにれ活動」N小（全学年）〔特別活動〕

全校児童の異学年の縦割活動。児童会活動のひとつとして位置付けている。年間を4ステージに分けたカリキュラムのもと、日常的な遊びの活動や、行事や児童集会への取組を通して、社会性や仲間と協力する心を育てる活動。高学年においては、リーダーシップを育てることもねらいとしている。

##### (2) 自己理解・自己管理能力

「ガソリン泥棒」M小（6年）〔防災教育・道徳〕

3.11の被災地でのガソリン抜き取りの場面での善悪にかかわる“ジレンマを生む授業。”さまざまな情報が伝わる中で、自分の考えを決めながら、被災地の人たちと自分の考え、行動について考えていく学習。非日常的な状況の中で、自己役割を考えたり、前向きに考えたりする力をつける。

##### (3) 課題対応能力

「くらしを支える情報」T小（5年）〔社会科〕

緊急地震速報を取り上げた社会科の学習。「緊急地震速報を受信した時、自分たちは何ができるか」「誤報もあるのに、なぜ緊急地震速報を発表し続けるのだろうか」を考える活動を通して、社会の情報化に伴う、情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力を身に付ける。

##### (4) キャリアプランニング能力

「ものづくり体験会」M小（6年）

〔地域の高等技術専門学校との体験学習〕

地域にある高専の生徒と近隣2校の6年生によるものづくり体験学習。将来のものづくり産業の担い手となる子どもたちを対象に、精密機械、金属加工、電子工学等7つの科目に分かれ、高専の生徒に学びながら、ものづくりの体験を通して、キャリアプランニング能力を身に付ける。

### 3. 地域社会などによるキャリア教育

子どもたちの勤労観や社会性を養うためには、地域社会との連携は、切り離せないものである。「地域」を学び、「地域の人」とふれあい、「地域の仕事」を知り、「地域への誇り」をもつ体験活動。キャリア教育の視点から地域の様々な活動を体験させたい。

#### (1) 事例1～地域を学ぶ・地域への誇りをもつ体験活動

『東区子どもまちづくり体験塾事業』小学校4～6年生

〔目標〕将来のまちづくりの担い手となる子どもたちを対象とし、東区内で行われているまちづくりの体験活動を通して、地域の一員としてまちづくりへの関心を高める。

〔内容〕サッポロビール園前での亜麻についての学習と美化活動、丘珠空港でのシティPR活動と歴史学習、北海道中央自動車学校での交通安全街

頭啓発など、東区にある企業や施設での体験活動や職員へのインタビュー活動、空港に来る人々への東区PR活動を行う。

キャリア教育の視点《自己理解・自己管理能力》から地域で働く人や地域の活動に関心をもち、自分で考えて行動したり、企画したりする力を育てる。

#### (2) 事例2～地域・保護者の仕事を学ぶ体験活動

S小PTA企画&地域子どもネットワークの協力

〔目標〕「Let's Work in S小学校」は、市内S小学校PTAが主催、地域子どもネットワークが協力して、子どもたちが職業体験を通して、働くことの楽しさや大変さを体験し、社会の仕組みを学ぶ。

〔内容〕それぞれのブースでは、その職業をしている保護者や地域の企業の方々が指導。PTAが中心となり、準備を進め、「パン屋」「新聞社」「調剤薬局」「陶芸家」「消防署」「コンシェルジュ」「システムエンジニア」など19の職業体験ブースにおいて、参加児童が販売者と消費者を交互に体験し、苦労や工夫を学ぶ活動を行う。

キャリア教育の視点《キャリアプランニング能力》から様々な分野の専門家や職業人と出会い、学ぶことは、その職業の意義や役割を知る機会にもなり、「キャリアプランニング能力」を高めることにつながる。

#### (3) 事例3～地域の子どもたちのつながりで学ぶ体験活動

札幌市幼保小連携モデル事業「なかよしキャンプ」

〔目標〕野外で行われる自然体験活動を通して、自然とふれあう、人とふれあう、自分とふれあうことを通して生きる力を育てる。

〔内容〕札幌市の幼保小連携の事業としての体験キャンプ。次年度、同じ学校で出会う年長児と5年生が、一緒に自然の中で交流を図り学び合う事業である。1年間に同じメンバーで4回（6月、9月、10月、1月）のふれあいキャンプ体験を行う。

キャリア教育の視点《人間関係形成・社会形成能力》から幼児とのふれあいを通して、高学年としての自信を深め、コミュニケーション能力を養う（5年）、幼児が5年生とのふれあいを通して、小学校への期待感を膨らませるとともに自主性、社会性を養う。

学校の子どもたちがこれらの活動に参加したり、協力したりすることで、学校の教育活動への関心・理解も深まり、地域の活性化、キャリア発達の向上にもつながっていく。

#### 4. 校長の指導性を発揮し、自校化を図るための取組

キャリア教育を自校において進めるに当たり、校長に求められる第一の課題は、キャリア教育についての「正しい理解」をすることであり、その考えを職員と共有していかなければならない。昨年の全市アンケートでは、市内の小学校でのキャリア教育の実施状況やマネジメントサイクルについては、過渡期であることが分かった。今後「新たなキャリア教

育の視点」にたち、自校で実践を図るための課題と今後の取組について改めて声を聞いてみた。

#### ◇札幌市立小学校の実態

〈札幌市小学校校長会 経営研修部アンケート  
【28校対象】H25.7月実施〉

#### (1) 自校におけるキャリア教育の推進状況

- |                                |
|--------------------------------|
| ① 「キャリア教育」を意識した取組が進んでいる。(57%)  |
| ② 「キャリア教育」を意識した取組は進んでいない。(43%) |

自校において「キャリア教育」を意識した取組が進んでいる学校は、約6割であるが、現在進んでいないと回答した学校のすべてが、今後の積極的な取組の必要性を挙げており、共に以下の推進上の課題を挙げています。

#### (2) 自校化における推進上の課題【複数回答有】

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| ① 学校の「組織」における課題          | (18%) |
| ② キャリア教育の「概念の共有化」における課題  | (82%) |
| ③ キャリア教育の「校内研修」における課題    | (46%) |
| ④ 「家庭・地域社会・校種間の連携」における課題 | (29%) |
| ⑤ キャリア教育の「評価」における課題      | (36%) |

キャリア教育の推進の状況に関わらず、自校でキャリア教育を推進していくことを考えた場合、約8割の学校が、職員間のキャリア教育の「概念の共有化」を一番の課題として挙げ、次に校内研修の課題を挙げています。

- ・職員間でもキャリア教育の理解に違いがあり、とらえも不十分であるという状況にある。
- ・職員の中で「キャリア教育」の理解が十分でなく、子どもたちに「キャリア教育」が意識化されていない。
- ・教職員の共通理解を図るために校内での研修が必要。
- ・キャリア教育が、その子なりに自分の生き方を見つめていく基盤を創るものだという共通の押さえを職員間でもつことが大事。

#### (3) 自校化に向けての取組

- ・キャリア教育のベースは、各校の特色ある教育によりどこを設け、各校の地域環境を最大限に活用すべきである。子どもたちが、自らの存在や生活に目を向けることもキャリア教育に欠かせない事項と考える。
- ・将来に向けた生き方を考える場として重要な役割を担っていることを、職員間で共通理解を図ることが大切。
- ・多方面に内在する「キャリア教育」の「断片」を整理統合しながら、学校としての「指導内容」「指導方法」の確立に向けて取り組んでいく。
- ・現在の教育課程の中から児童への指導の中に内在しているキャリア教育につながる指導を洗い出す。
- ・洗い出したものを、縦の学年のつながりができるように、キャリア教育のねらいと照らして、学年間の学習内容ののりしろが太くなるようにつなげる。

- ・日常的に行っている委員会活動や係活動の意味を改めて考えさせたり、学校生活や学習の中で他者の考えや行動などを感じとらせたりしていくことも必要。

- ・家庭や地域社会と連携・協力し、人との出会い、ふれあいの機会を多く設定する。

#### (4) 校長の関わり

- ・自校の重点目標と関連させながら、目指すべきキャリア教育のとらえ方を校長が学校経営方針の中に位置付ける。
- ・キャリア教育推進担当やキャリア教育推進委員会などを置き、自校のカリキュラムの整備を行わせる。
- ・「なぜ、今キャリア教育なのか」をしっかりと職員に理解させるための研修を計画的に実施し、「実践するのは、全職員である」という認識に立たせる。
- ・校長講話や校長通信などで、行政や他校での取組を積極的に職員へ情報提供、情報発信することで、日常の学級経営や学習指導と深い関連があることを理解させる。
- ・校務分掌の見直しなどにより、各行事や日常の取組がキャリア教育につながるように意識させる。

## III ま と め

社会性を育て、生きる力を育むキャリア教育が、今後しばらくの間、学校教育の中で中核をなしていくことは、多くの学校が感じていることだと思う。

しかし、その推進と自校での取組については、いくつかの課題が存在し、「キャリア教育を意識した取組」をしていくためには、現在の自校での教育活動が、児童のキャリア発達にとって、どのように生かされるのかという視点で見直すことが必要となる。

「キャリア教育」については、学校評価や自校の教育活動の反省などのように、内から湧き出る課題とは違い、世の中の状況や現在の日本の雇用実態などから必要とされている喫緊の課題である。そのため、職員の声から取組が始まることを待つのではなく、私たち校長が率先して、キャリア教育への取組が、子どもたちの持ち味を最大限発揮し、社会性、自立性を養うものであるということを職員に正しく理解させていかななくてはならない。

「キャリア教育」は、自校化に向けて、学校職員全体と概念を共有し、計画的な校内研修や地域社会と連携・協力して実践することで、より促されると考える。

現在、キャリア教育には、学ぶ意義を認識し、学習意欲を高めることにも大きな期待が寄せられている。

子どもたちが自分の学校で学んだり体験したりしたことが、将来の自分の生活や職業に役立っている、自分の生活を豊かにしていると感じることができるような学校づくりが、キャリア教育の推進を日指す学校の姿であると考えます。